

12. 沖縄県北谷町の慰霊碑調査

京都府立大学文学部地理学研究室

京都府立大学文学部歴史学科3・4回生向け開講科目「地理学実習」、大学院生科目「地理学演習」では、沖縄県内の市町村から任意の自治体を選択したうえで、当該自治体内の慰霊碑を調査することを慣行としている。今年度は沖縄本島中部西海岸に位置する北谷町が選ばれ、町内に現存する唯一の慰霊碑「平和之塔」(写真1、図1～3)の実測調査、碑文調査を実施した(写真2・3、資料1～5)。

調査日 2024年6月23日

調査員 上杉和央、岸泰子(教員)、王一冰、松岡茉陽流、山内愛弓、横白彩江(以上博士前期課程)、橋本唯、藤田尚希、山下悠衣奏(以上4回生)、岩井天、岡橋莉奈、崎浜七夏、樋上千翔(以上3回生)

なお、今年度の平和之塔における慰霊祭は6月1日に実施された。



写真1 平和之塔全景

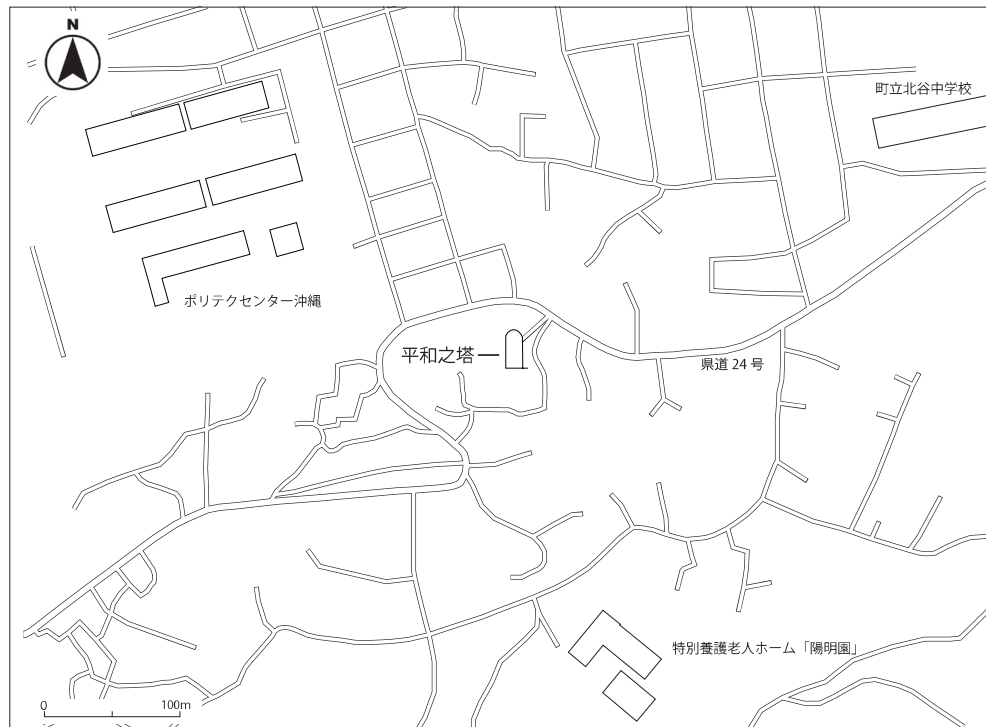


図1 平和之塔周辺図（地理院地図を参考に作成）

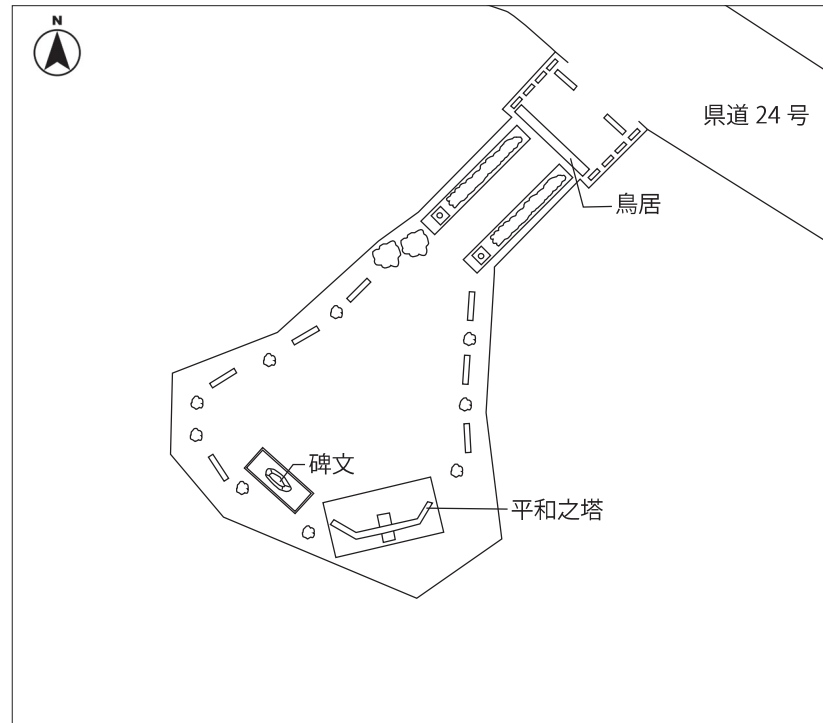


図2 平和之塔配置図（Google マップを参考に作成）

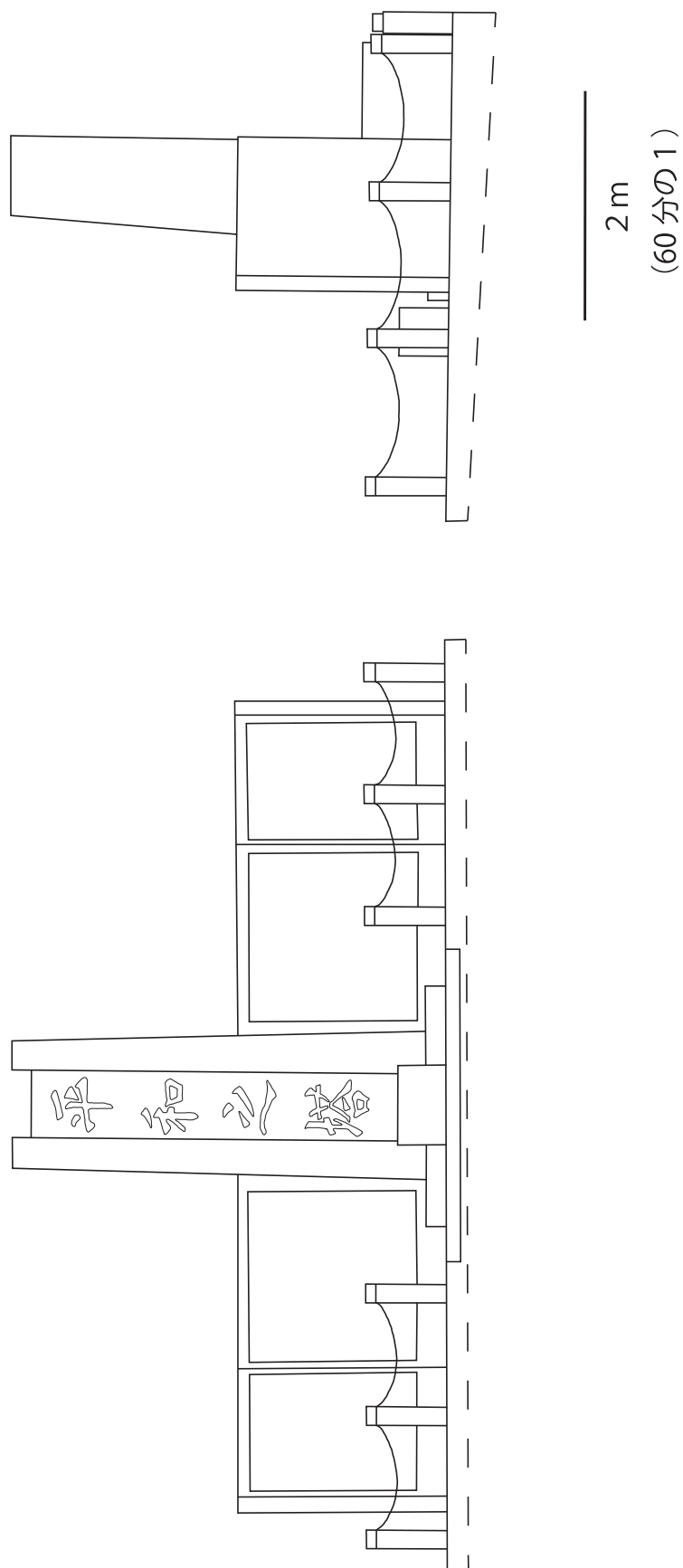


図3 平和之塔実測図 (左：正面図、右：右側面図)



写真2 平和之塔背面（番号は加筆）

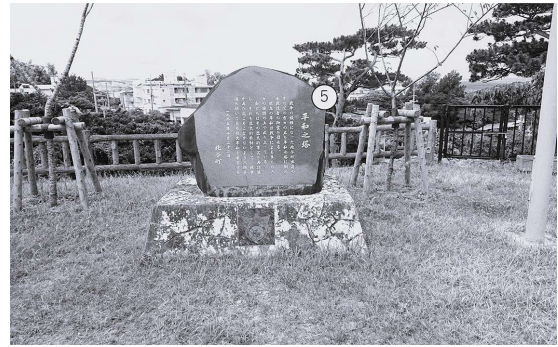


写真3 碑文刻銘碑（番号は加筆）

北谷町平和之塔整備工事

竣工 平成7年10月22日

発注者 北谷町長 辺土名朝一

施工者 有限公社 北原土木

石工事 有限公社 中央石材

資料1 平和之塔背面碑文（写真2-①）

「平和之塔」建立経過

昭和二十九年 十月 建立（北谷村）
 九六八柱の軍人、軍属及び準軍属を合祀
 昭和三十年 九月 ハワイ県人会により塔の周辺、花形ブロック等の整備
 昭和三十八年十二月 北谷町傷痍軍人会により入口及び鳥居の整備
 昭和五十二年十一月 戦没者の三三年忌法事にあたり、戦没者を再確認し刻銘する（北谷村）
 一二九四柱を合祀
 平成七年十月 終戦五十周年の節目に北谷町出身の全戦没者を刻銘（北谷町）
 二二一六柱を合祀

資料2 平和之塔背面碑文（写真2-②）

平和之塔建設委員

村 長 渡慶次賀善
 議会議長 真栄城兼良
 議会議長 喜村朝教
 遺族会々長 上間至清
 同 副会長 瑞慶覧キヨ
 同 理事 平川殿松
 同 理事 目取真興吉
 彫刻者 長堂昌宏

昭和二九年十月十日

資料3 平和之塔背面碑文（写真2-③）

贈 平和之塔鳥居
 北谷村傷痍軍人会
 發起人氏名 高宮城実盛
 島袋善吉
 高江洲義徳
 島袋善正
 仲栄真盛昌
 崎原盛永
 喜友名トヨ
 仲宗根トシ
 比嘉春子
 町田宗邦
 外五十四名
 寄付者芳名
 昭和三十八年十二月八日
 設計 永田盛重
 施工 浜元盛徳

資料4 平和之塔背面碑文（写真2-④）

平和之塔

戦争の犠牲になった北谷町出身の
 すべての方々の名を平和之塔に刻み、
 全戦没者の御霊を慰める。
 現在の平和は戦争による多くの人
 々の犠牲の上で成り立っている。
 私たちはその歴史的事実を再認識
 し、それを歴史的教訓として、戦争
 が再び起こることがないように人類普
 遍の願いである恒久平和を希求する。

一九九五年十月二十二日
 北谷町

資料5 碑文刻銘碑碑文（写真3-⑤）

編集後記

余裕をもって仕事に取り組みたい。一つ仕事が終わる度に今度こそはと思うが、今回も果たせなかった。文字通りバタバタ。年末から長い師走が続いている。一つの救いは、春からのフィールドワークに始まり、冬の集報に終わるこの一連の営みが、10号を越え、府大歴史学科の伝統として根付きつつあること。フィールドをご提供いただいた関係各所のご厚意に深く感謝申し上げたい。

なお本書の組版作業は、歴史学科文化遺産学コースの合同実習メニューとして学部生がAdobe社のInDesignを利用しておこなっているが、もちろんそのままでは本にはならない。一書にまとめるにあたって力を尽くしてくれた大学院生の頑張りにも深く感謝したい。(い)

京都府立大学文学部歴史学科

フィールド調査集報 第11号

編集・発行 京都府立大学文学部歴史学科

〒606-8522 京都市左京区下鴨半木町1-5

発行日 2025年3月31日

印刷 株式会社 北斗プリント社

〒606-8540 京都市左京区下鴨高木町38-2
